

宮古発

被災地で仕事始め

達増知事は震災発生後、毎年、仕事始めを沿岸の被災地で行っています。今年は午前6時から行われた



宮古市魚市場の初売りに出席し「水産業を柱とする生業の再生に向けて復興を進めていく」と

挨拶しました。また午前9時過ぎからは県の宮古地区合同庁舎で職員に訓示しました。(1/4 ニュースエコー)

釜石発

震災を乗り越えたご神木伐採

釜石市鶴住居町の鶴住神社の境内にあるご神木で、地域の人々から「夫婦クロベ」と呼ばれるヒノキ科のクロベの巨木2本が枯れて倒れる危険があるため伐採されることになりました。300年以上前に植えられたとされる2本の木は震災後も高台から地域の復興を見守ってきました。神社では伐採した木でお札や神事に使う道具を作ることにしています。(1/4 ニュースエコー)



陸前高田発

さんりく元気ラジオ！

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

陸前高田災害FMの菅野陽子さんが、今年の陸前高田市の予定を伝えてくれました。まず高田地区のかさ上げした中心市街地に建設中の大型商業施設・ショッピングセンターがこの春完成を目指しているという話題。市民の憩いの場、交流の場にもなりそうです。また陸前高田市立東中学校の新校舎が完成し、3学期から新校舎での学校生活となるということです。一方旧校舎は、市と岩手大学、立教大学との連携事業・陸前高田グローバルキャンパスとなり、今年開校する予定です。震災からもうすぐ6年。菅野さんは「少しずつ前に進み、嬉しいニュースが増えてきました」と話していました。(1/4)

陸前高田発

新成人は182人

被災地・陸前高田市で182人が出席して成人式が行われました。新成人たちは震災が発生した201



1年3月11日は中学2年生。中3の始業式が遅れたり、小学校の校舎を間借りして授業を受けたりするなど様々な影響を受け

ました。新成人たちは震災の経験を糧に自らの夢に向かうとともに故郷・陸前高田の復興を担う思いを強くしていました。(1/8 ニュース)

陸前高田発

行方不明者の集中搜索

震災の発生から5年10か月。いまだ204人の行方が分からない陸前高田市では、気仙町の要谷漁港近くに大船渡警察署の署員7人が搜索にあたりました。署員は海に向かって黙とうを捧げたあと熊手やスコップで砂浜をかき分け、不明者の発見につながる手がかりがないか、丹念に探していました。(1/11 ニュースエコー)



大船渡発

さんりく元気ラジオ！

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

大船渡「FMねまらいん」の伊藤こずえさんが、大船渡市三陸町吉浜地区に伝わる小正月の伝統行事「スネカ」について伝えてくれました。これは、奇怪な面を着け、米俵やアワビの殻などを身にまとったスネカが、小正月の夜に地区内の家々を訪れて「悪い子はいねがー！」などと言って怠け者や泣く子を戒める行事です。180年以上の伝統があり、現在は保存会の方や地域の中高生等がスネカに扮するという事です。家に来るとほとんどの子供が泣いてしまうという怖いスネカですが、伊藤さんは「身に着けている米俵は豊作を、アワビの殻は豊漁を願う、地域の大切な伝統行事です。いつまでも残して欲しい」と話していました。(1/11)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIB公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122